

2023（令和5）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492100092	事業の開始年月日	平成21年11月1日
		指定年月日	平成21年11月1日
法人名	株式会社 メディカルケアシステム		
事業所名	グループホームちいさな手鎌倉の杜		
所在地	( 247-0066 ) 神奈川県鎌倉市山崎756-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	名 ユニット
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果 市町村受理日	令和6年2月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

鎌倉という由緒ある土地の環境も静かなお洒落なホームで、毎日活気があり楽しみがあるホームを目指しつつ、安心して生活して頂けるよう自立支援に向けて努めております。

好きなこと、得意なことを忘れないで欲しい活動では、編み物、お裁縫、お菓子づくり、園芸活動を充実させてます。季節のイベントや誕生日のイベント（夢を叶えるプロジェクト）は、入居者様の笑顔がたくさん見られ写真に納めご家族様にご提供したいへんご好評を頂いております。

月に2回の内科往診、月に1回の皮膚科往診、毎週1回の歯科往診、週1回の訪問看護を実施し病気の早期発見、早期治療を行い医療との連携を図っております。

入居者様の住み慣れた地域で御家族、ご友人、近隣の方々が、いつでもホームにお越し頂けるよう、繋がりを大切に笑顔溢れるホームを目指しております。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年11月10日	評価機関 評価決定日	令和6年2月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、湘南モノレール「富士見」駅で下車し徒歩7分ほどの所にあります。周囲は車両の通行が少ない閑静な住宅街で、近くには湘南鎌倉医療大学があります。事業所玄関横に花壇やウッドデッキを備えています。建物1階から2階に続く吹き抜けにより、明るく開放感のある造りになっています。

<優れている点>

居室担当者が考えたアイデア、「夢を叶えるプロジェクト」を推進し、「外食をしたい。着物を着たい。ケーキを作りたい」といった入居者の様々な夢を実現しています。その様子を「100枚写真展」として施設内に掲示しています。また、入居者がペットボトルを加工して作った「花」の作品を図書館などの公共施設に展示することによって、入居者の創作意欲を掻き立てています。家族による演奏会、撮影会なども催し、「女学校みたいな明るく楽しい施設」を実現しています。

<工夫点>

ユニットを超えた職員間の交流を持ち、事業所の職員がすべての入居者と関わりを持つように工夫しています。全職員が全入居者のケアをすることができる態勢にすることで、入居者が1階と2階の各フロア間を往き来し、ユニット間の交流を実現しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームちいさな手鎌倉の杜
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念は、クレドカードを携帯し実践に繋げている。施設の理念は、エントランスに掲示し毎日仕事始めに確認している。	理念とは別に「2023年 バリアフリー化を目指す」という事業所の目標を掲げています。物理的な面だけではなく、入居者、家族、職員が相互に心を通わせることのできる「精神的バリアフリー」の創出を企図するものです。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。 地域の防災訓練に参加したり、ボランティアによるイベントなど開催し、交流を深めている。	町内会に加入し、入居者と共に町内会主催の防災訓練に参加をしています。近くの神社の祭を見に行ったり、保育園の前のベンチに座って、子どもたちの遊ぶ姿を見るのを楽しみにしている入居者もいます。	行政、地域包括支援センターと協働して、事業所近くの保育園と多世代交流を実施することが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	レクリエーションで作成した作品を行政センターや図書館に展示して頂き、施設や認知症を知って頂く機会を作っています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	対面での会議を前年の6回目から再開している。 ホームの情報や市役所、地域包括、町内会、民生委員の情報を共有している。地域包括が間に入って頂き、看護大学の学生との交流も行う。	鎌倉市役所、地域包括支援センター、町内会長、民生委員に家族代表、職員が加わって毎回10名ほどで開催し、情報交換を行っています。会議は事業所1階の共有スペースを使用し、入居者の顔を見ることのできる環境で開催しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	空室状況の報告や研修参加などの相談をさせて頂く。	市役所の介護保険課の職員が運営推進会議に毎回出席しています。介護保険の手続き代行の際には、市役所に出向いています。鎌倉市内のグループホームで構成されているグループホーム連絡会に所属して情報共有を行い、職員が研修会に参加をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の防止については、研修、ミーティングなどで周知徹底を図っている。定期的に支援方法の検討を行い、居室環境を整えたり、リビングの食席の配置変更行うなど未然に防ぐよう努める。毎日、業務の後にセルフチェックを行う。	「身体拘束廃止に係る委員会」を3ヶ月に1回ほど開催し、出勤している職員は全員が参加をしています。「身体拘束等の適正化」の研修を実施し、研修終了後は受講者の感想を記録しています。セルフチェックシートを用いて、業務終了後に各職員が振り返りを実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会、研修を行う事で防止に努めている。職員同士がお互いに注意出来るような関係性を作っている。	入居者と職員の相性に気を配っていません。職員から「良好な関係性が築けていない」との訴えがあった場合には、入居者の担当職員を変更して対応することで、虐待につながることをないように配慮をしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は事例は無いが、虐待研修の中で学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談時に当ホームの理念、方針、規約の説明を事細かに行う。疑問点をお互い確認し納得して頂き、契約を結んでいる。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が来所された際にご意見、ご要望をお伺いし運営に反映するよう努めている。管理者はご家族と密に連絡が取れるようにLINEを繋げて対応して入る。また、エントランスに意見箱を設置している。	管理者は、職員間の業務連絡用と入居者家族との連絡用に2種類のSNSアプリのグループを立ち上げています。「写真が送られて来るので、様子がよくわかる」と入居者家族に好評で、家族の要望を把握するために欠かすことのできないツールとなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人の悩み事はもちろんのこと、面談を定期的に行う事で、解決に努めている。また、業務改善会議やカンファレンスなど、職員が自分の意見を言える環境を作っている。	月に1回ほど開催される全体ミーティングやケアカンファレンス、研修会の場で管理者と職員が意見交換をしています。職員の提案で、外国人技能実習生が理解しやすいように、清掃の場所、手順、道具等の一覧表を作成し共有スペース横の壁に掲示しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の管理者と職員の個人面談を設け、成功事例を評価し、やりがいに繋がられるう行っております。年更新の雇用契約は賃金の見直しを行っております。残業はほぼなくライフワークバランスを持てるような職場作りに努めております。	事業所の職員がすべての入居者と関わりを持てるように、ユニットを超えた職員間の交流があります。ユニットごとではなく、事業所の全職員が全入居者のケアをすることができる態勢となっております。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	2か月毎に本社ではリスクマネジメントベーシックコースを4日間開催し向上に努めている。代表自らご講義に立ち、ホームに持ち帰りミーティングの時に内容を確認し、職員全員の介護技術の向上に努めている。女性リーダー研修への参加も実施している。	資格取得のための費用は法人による全額負担や、一泊の研修も実施し、介護技術の向上はもとより職員間の交流にも配慮をしています。事業所は、職員が外部研修や資格取得のための講座に参加しやすいようにシフト表を作成しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	本部研修を通じ、同グループの職員間で意見交換やディスカッションを行う機会がある。また、他ホームに手伝いに行き、互いに刺激しあう取組みを積極的に行う。地域の研修に参加することで向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	実態調査を丁寧に行い、ご本人の思いや不安を傾聴する。出来る事と出来ない事をきちんとお伝えし、安心、理解を頂けるようコミュニケーションを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族のご意思に沿ったサービスの提供ができるよう、要望を聞きながらお互いに話し合うことで良い信頼関係を築けるよう努めている。入居前からメールを繋げ、質問に応えることで、不安ごとを無くせるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	フェイスシートを作成し、支援内容の共有、サービスをさせて頂く。職員が生活の中で気づいたこと、知り得たことを追記し支援の検討を行う。課題にはPDCAサイクルを活用し取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の楽しむことが、職員が楽しむことに繋がっている。信頼関係の構築が相互関係を良好にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人とご家族様の関係性が一番を念頭に置き、職員は支援に心がけている。これまでの習慣や好きなことをご家族様に確認しながら、行う事で、満足な支援ができる様に心がけている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご親戚や、ご友人とお電話の取次ぎや面会などご希望で行って頂く。入居前から通っていたカルチャースクールを継続するなど、ご本人様が自由に選べる環境を作っている。	毎日のように面会に来る家族がいます。入居者の誕生日には、家族や友人によるバンド演奏があったり、入居前と変わらない関係が継続しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれが興味をお持ちの事柄を把握し、その日の心身状態や気分、感情の変化をみながらレク等への参加を促して皆様に楽しめる時間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特にお看取りで退居された入居者様のご家族様にとっては思い出の場所になり、お手紙やご連絡を頂くこともある。お返事をするなど交流がある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に傾聴を行い、なにがしたいかなど把握に努めている。また、ご希望をケアプランに反映できるように、【わかってシート】を活用している。	職員は入居者一人ひとりに、毎日傾聴する時間を作っています。好きな事は何か、何をしたいのかの把握に努め、職員間で統一ケアができるように介護記録に記入しています。入浴中など、リラックスできる環境で話を聴いています。意思疎通の難しい方は、日常動作や生活歴からヒントを得ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴、ライフスタイルをご家族様やケアマネに確認する。また、ご本人とコミュニケーションを取ることにより得た情報は職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のバイタルチェック、食事量、水分量の確認、起床時間、睡眠時間などを記録し体調の様子を把握している。できることは出来るだけご自分でできるように声掛けの工夫をし支援させて頂く。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個別カンファレンス、ミーティングを通じて意見交換を行い、適切なケアに取り組んでいる。日常的にも最善の方法をディスカッションし、介護計画に繋げるよう努めている。	本人や家族に話を聞き、その人らしく暮らせるようケアプランを作成しています。入居者の健康面、レクリエーションへの参加、不安な様子はないか、居室担当者によるモニタリングやカンファレンスなどの場で職員全員で意見交換し、現状に即したプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿って日常を過ごして頂きながら体調や行動の変化があった場合には、申し送りや、個人記録に記入し職員間で情報共有をし、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の意思を尊重し、ご希望に沿うような個別対応を心がけている。またそのためのツールを増やす様、職員の特技や特性を活かした体制づくりにも努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の訪問マッサージを利用頂いたり、図書館で紙芝居を貸し出し頂いたり、市の公園など、外出散歩レクに利用させて頂いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1ヵ月に2回の内科往診、1か月に1回の皮膚科往診、毎週の歯科往診、医療マッサージをご用意させて頂く。常にご家族様には身体状況を説明できる様にし、希望者にはご家族様の立ち合いも行っている。意向を大切にし、日常の往診に加え、必要があれば紹介状を頂くなどして病院受診に繋げている。	ほとんどの入居者は、提携医療機関の訪問診療を受けていますが、在宅時から通っている眼科、整形外科は継続して家族と受診している入居者もいます。週2回の訪問マッサージでは、健康維持や階段の上り下りなど、筋力維持のためのアドバイスを貰い、職員と共に行っています。施術を受けながらの会話などコミュニケーションも大切にしています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	受診前に、入居者様の情報を紙面に整理し、申し送りを行う事で速やかな対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関からの情報を元に退院時より安心して生活に戻れるよう環境を整える支援を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者様の変化に気付いた時点で、ご家族様、主治医と相談を行う。職員間ではミーティングを開催し、御本人や家族の希望に添った支援、サービスを確認し、最後まで安心して生活して頂くよう、目標を設定し支援に努めている。	終末期には、入居者は家族と密な時間をもち、主治医、職員と協力し安心して最期まで生活できるよう支援しています。居室で休んでいる時も、寂しくないよう皆で見守り声掛けしています。最期は、一緒に暮らした仲間や職員が玄関まで見送り、お別れしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応についての研修会を実施している。もしもの時に慌てず対応できるように各自備え、記録の確認をおこなったり情報収集に努める。マニュアルを自由に閲覧出来る様にする。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員は毎日、消防・避難誘導設備の点検を実施している。年2回の専門会社の火災報知器点検も実施。訓練の参加を行う事で、全職員にイメージを持つように心がけている。	入居者と一緒に、地域の消防訓練に参加しています。災害時は、遠くの避難所への移動は難しく、施設の安全な場所に避難します。地域包括支援センターと相談し、近くの医療大学への避難や近くにある、同じ事業所運営法人の施設と協力体制を取るようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人のお気持ちを大切に、さりげないお声掛けと、選択肢をもったサービスに努めている。お一人お一人の個性に合ったケアを実践に努めている。	これまで生活してきたように、洗濯物を干したり、庭の花に水やりをしたり、自由に暮らせるよう支援しています。食事の時は、介助の必要な人や食べこぼしの多い人に対し、他入居者から見えない位置に座るなど、互いの自尊心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人のご希望を言いやすい環境、自己決定できるようなお声掛け・雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ペースとなる時間割振りはあるも、ご本人の意思を尊重し、無理強いはしないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	各居室にご本人所有の鏡や化粧品があり、自由に使って頂く。また、ご自身で行えない方には整容の支援を行い、レクレーションでメイクを施すこともある。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホワイトボードにご入居者様に献立を書いて頂く。それを見てご入居者様同士での会話も広がる。盛り付けを一緒にさせて頂きながら料理の知恵などを教えて頂き、お手伝いも積極的にして頂く。	食事は職員が、リビング中央の対面式キッチンにて調理しています。料理中の様子や匂い、包丁の音など五感を刺激することで食欲増進につなげています。週2回のお弁当作りでは、入居者は役割を決めておかずを詰め、バイキングの時は、好きなものを食べて貰うなど、食への関わりの機会を増やしています。	日常の食事において、入居者の参加や食欲を高める工夫をしています。引き続き、食事を楽しめる環境づくりの継続が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日に必要とされる水分摂取量や食事量の摂取の留意点を把握して、小まめにチェックと支援を行い記録している。ご入居者様に合った刻みやミキサー食、ご入居者様が好きな飲み物などをご家族様にお聞きし、提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施。ご自分で出来るところはお声掛けで対応し、難しいところは職員が介助する。その際、異変などの確認も行い、歯科医院に連携を取るなど支援行う。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ひとりひとりの排泄パターンの確認を行う。気になること、こうしてみたら良かった等の方法を職員間で意見を出し合い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努める。	排泄の様子を記録し、自立に向けて支援しています。食事前の声掛けや4時間ごとのトイレ誘導をすることで、失禁が減りリハビリパンツから布パンツになった入居者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便通の記録、ご利用者様の様子をよく観察し、看護師に報告、相談を行う。適度な運動、また牛乳やヨーグルトを召し上がって頂き便秘予防に取り組む。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	安全に入浴して頂くことを第一に支援する。ご自身で出来ることは行って頂く。一対一でケアをさせて頂くため、コミュニケーションを取る貴重な時間にもなる。シャワー浴や清拭など個人に合わせた支援も行っている。	同性介助にて、一人ひとりゆっくり入浴をしています。浴槽の湯は一人ずつ入れ替えて、清潔を保っています。脱衣所の横にトイレがあり、入浴前や入浴中でもドア一つで排泄できるようになっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムや体調が崩れないよう、お一人お一人の体力に合わせて適度な休息を取って頂く。日中は適度な運動や外気浴をして頂き、夜間しっかりとした睡眠がとれるよう雰囲気作りや室内温度などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居室担当者を作り職員が薬剤情報の確認と薬の管理を徹底する。服薬支援の際は、日時・名前・数量を複数の職員で確認、ご本人様に伝えながら一緒に確認、飲み込むまで目視し、服薬事故防止を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	縫物が好きだった、庭いじりが好きだった等の情報を活かし、その方に合わせた余暇活動の支援を行っている。また、集団でのレクリエーションも意欲的に行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には外気浴を楽しんで頂く。中庭でカフェのような雰囲気を作り、皆様でおやつを召し上がるなどの時間を充実させている。また月に数回、ドライブを行うことで気分転換を図っている。	コロナ禍前には、家族との旅行や、年末年始に娘宅に泊まるなど気分転換をしていました。面会時、家族と近隣を散歩する人もいます。入居者と家族、職員の総勢40人で、フラワーセンターに出かけたのは、楽しい思い出になっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は原則として所持していないが、近隣のスーパーやコンビニへ同行し、買い物を楽しむなどに時間も大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望がある時は電話の取次ぎを行う。携帯電話を所持されてるご入居者様もおられ、お好きな時に連絡をされる。ご家族に手紙を書かれる方もいらっしゃる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔感と、温かみのある空間になるよう、不要な装飾はせず、季節を感じられる展示物の掲示に努めている。	入居者の手作りの作品、習字、塗り絵、刺し子などを11月の「鎌倉の杜文化祭」で、中庭に展示しています。入居者はエレベーターを使い、自由に1階2階を移動しています。家族によるリビングでの演奏会や中庭でのアニマルセラピーなど、家族の協力もあり、居心地の良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食席では気の合う方と談話をして過ごされたり、ソファ席ではお一人でゆっくりテレビを観られたりと居心地の良い環境作りを工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使い慣れた家具を設置することで、安心して休んで頂ける空間作りを行う。また、転倒リスクの軽減を図るため、センサーマットや手すりを導入し安全に快適な生活の工夫をしている。週2回の居室清掃、週1回のリネン交換で清潔な環境を目指している。	自宅から使い慣れた、三面鏡、仏壇、本棚、イスなど持ち込んでいます。また家族からのメッセージや写真を飾り、安心感のある場所になっています。ベッドから安全にリビングに移動できるように動線に配慮し、手すりを設置している部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立支援、残存機能の保持を目的に、日常の中で出来る事はお手伝いして頂き、安全に作業ができる様動線の確保や整理整頓に努めている。		

事業所名	グループホームちいさな手鎌倉の杜
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「愛・生きる喜び・快適な生活」の3Lの精神を理念とし、入居者様、ご家族様、スタッフひとりひとりの幸せが大きな幸せにつながるよう豊かな生活の実現に取り組んでいる。エントランスにはホーム目標を掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	防災訓練の参加やお祭りの寄付など行い、地域活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者様が作った作品を、鎌倉市内の公共の場所に展示して頂くなどの機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎の開催は鎌倉市の方から町内会の方まで参加頂き、情報を共有している。参加者からネットワークの拡大が図れ良好な活動ができている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にご参加頂くことで定期的な情報が共有できている。また、わからないことなど市の方にお電話するなどし、迅速な回答を頂くことで安心したコミュニケーションが取れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な委員会の開催と研修の徹底を行う。年に1回は自己チェックを実施し自分たちのケアの振り返りも行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	業務日誌の裏面に、終業後セルフチェックをすることで、徹底を図る。管理者は定期的にチェックができていない職員に対し、ヒアリングを行うことで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会に参加することで、知識を得ている。必要性のある入居者様が居たら活用できるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学の時点、解約の検討段階から、ご家族様のお困り事、ご本人様の不安なことなどを解決できるように、丁寧な対応に心がけている。都度、質問や連絡がしやすい体制づくりに励んでいる。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	話しやすい関係性を築くため、些細なことでも、ご家族様に報告を怠らない。個人情報に関することは、承諾を頂き、外部に繋げるように対応している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ご家族様の来訪時は、必ず管理者がお迎えやお見送りを欠かさず行う事で、ご意見や話やすい機会を設けている。また、窓口を一つにすることで、ご家族様に混乱させないよう心がけている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自、役を持ち、自分の良いところを活かせる職場になっている。勉強会で学びの機会をもうけ、キャリアデザインができる環境作りができている。時間外の手当もしっかりできている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本部研修とは別に定期的にホームで勉強会を実施し、日々の介助方法の確認や、正しいケアの実践方法を学ぶ機会がある。外部研修への参加も積極的にできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他ホームとの交流も、積極的に管理者が環境づくりを行っている。近隣ホームに体験に行くことで、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人に傾聴を行うことで、課題を確認し、これまでの習慣や環境を知ること、ホームの生活に反映できるように努めている。そうすることで、安心の確保ができるようになる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者が初期段階から丁寧に関わりを持ち、職員に共有をしている。入居後は担当職員を付けて、ご本人が不安にならないように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	課題は何かを見極め、優先順位をつけて対応している。無理強いせず、ご本人とご家族様の了承をえながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様の関係性を壊すことなく、支援の実行を行う。できるだけ、ご家族様も関わっている充実感を感じて頂けるよう、報連相を管理者は行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	住み慣れた地域で、安心して過ごしていただけるよう、面会は自由にし、手紙や電話の取り継ぎも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お互いが助け合い協力しあった関係性が構築できている。時には気分が乗らず一人でいたい時間もある場合は、そっと見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他ホームの転居の支援もご協力させていただき、ご逝去されたご家族様からのお手紙など頂戴することもあり、ご縁を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の会話の中で、ご本人の要望を伺う。お話が困難な方には表情を読み取り、苦痛のない生活を支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様に聞き取りを行い、ご本人の生活歴に近い暮らしが出来るよう努めている。お好きな食べ物やお洋服など差し入れて頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	担当職員が定期的にはアセスメントとモニタリングを行い、現状の把握に努めている。課題に関してはカンファレンスを行い、職員に意見確認し、最善のケアに努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	情報収集を行い、プランに反映している。職員間でもそれぞれ違う意見や、アイデアがあるため、カンファレンスで統一したケアを決めている。申し送りをしっかりおこなうことでチームワークを取る。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員間の共有は徹底している。特にヒヤリや事故報告はスピード解決と対策を取るため、職員でグループラインを持ち、適宜アップし確認を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別支援に力を入れている。何をしたいか、何が好きかを確認し実行に繋げ、フロアではなく中2階に場所を移し、クッキングスクールを行ったり、園芸クラブを発足させたりと職員の特性も活かしサービスの質の向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	植物園を利用、公園の利用をしている。地域の老人会の支援もあり、雑巾などの寄付を頂く。で、扇子と扇子袋を頂くなど、コミュニケーションを大切に地域の高齢者との関りを持つようにしております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日常の往診に加え、必要があれば病院受診をして頂き、ご本人の健康に留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護が週1回健康チェックを行い、24時間のオンコールで密に連携をとれる環境である。看護師との連携を取り心身のチェック、医療面のアドバイスを受け異常時には的確な指示の下、介護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、看護師との連携を図り病気や怪我の早期発見治療に努め、可能な限り長期入院を避けるようにしている。また、ご家族様と共に回復状況等の情報等交換に努め、退院支援に結びつけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居時に看取りに関する指針をご説明し書面にて承諾を頂く。段階ごとにご家族様、主治医、ホーム長、看護師、ケアマネージャーと意向を確認しながら、対応方針の共有を図っている。それぞれの役割を大切にチームとして取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当、管理者への連絡が速やかに行えるよう職員に指導している。マニュアルを掲示しいつでも確認できる様にし、研修も行う。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防設備の確認、点検を実施。地震発生時には入居者の所在確認を第一に行うこと周知。BCP計画の共有を職員に行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に敬意を払い、お一人お一人のその時の状況やお気持ちを大切に考え、生活スタイルや個性を踏まえながら、親しみを持って頂ける言葉掛けや、安らぎを感じて頂ける対応をさせて頂く。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を大切にし、会話の中で感じ取り、ご本人にとって何が必要かを考え、自己決定できるよう、お一人お一人にあった形で、いつでもお気持ちを伝えやすい雰囲気づくりと、答えを引き出せるような言葉掛けを心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ベースとなる時間割振りはあるも、ご本人の意思を尊重し、無理強いはいしないよう支援する。個人の時間と集団の時間を持って頂くよう支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身の着たい物や整容は、ご自分の思考を大切にさせていただく。できない方は、ご家族様に確認し支援する。常におしゃれを楽しんで頂けるよう、マニキュアの会やドレスコードを設定したイベントを企画している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる方にはお手伝い頂く。お弁当作りを定期的に設け、いつもと違う食事の準備や提供を行い、楽しんで頂く工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録している。変化があれば情報共有し、食べやすい物、飲みやすい物を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの支援を実施。ご自身で行うのが難しい方は職員がサポートしている。訪問歯科に診療依頼し、ケアのポイントを共有することで維持に努める。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表の記入により、24時間排泄回数を把握し職員間で共有。排泄時間にお声掛けし、なるべくトイレで排泄されるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給や適宜の運動を取り入れ、便秘の改善に努める。便秘の際は、医療マッサージに繋げマッサージを行うことで改善に努める。下剤の調整は主治医や看護師に相談し対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	安全に入浴して頂くことを第一に支援する。ご自身で出来ることは行って頂き、ヒートショックに十分留意しながら、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。季節に応じて、また身体状況に応じて清拭やシャワー浴を実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	21時を消灯にしている。早く就寝する方もいれば、自室でゆっくりとした時間を設け休まれる方もいる。清潔な寝具で、安眠できる様支援している。室内温度計を設置し、温度管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問看護、薬剤師と連携し、服薬について指導をして頂く。また、服薬管理表を使用し、服薬確認を確実にできる様にトリプルチェックを行う。服薬事故を起こした場合は速やかに報告と業務改善に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や特技を活かした楽しみをしていただく。また、そのお姿を写真に収めご家族様にご覧頂くなど、共有をすることで皆様の幸せに繋げている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	帰宅願望の方は、職員と一緒に外に出ることで改善に努める。天気の良い日は、マンツーマンで散歩の支援も行っている。また、ご家族様が積極的に散歩にお連れして下さる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持はない。買い物は立替金で対応。レクの一環で買い物に外出もあり。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話の取次ぎは行っている。暑中お見舞いや、年賀状などレクで作成しお送りするなど、楽しみながらの取り組みも行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔保持、整理整頓に努めている。大きな窓ガラス、高い天井は開放的な居住空間で皆様、穏やかにお過ごし頂く。以前開催した行事の写真を掲示したり、花を飾るなど行い、快適な空間の演出に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングは常に解放し、共用のテレビを利用出来る。皆さんで談笑したりと自由に過ごす事の出来る空間を大切にしている。リビングで新聞をゆっくり読まれりソファでテレビをご覧になられたりと思ひ思いに時間をお過ごし頂く。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	殆どの方が、自宅で使用していた家具などを持ち込み、居心地の良い居室作りを行っている。家族の写真やレクで作成した作品を飾るなど、ご自分の生活空間を作っている。収納は何かどこにあるか、ラベルを貼ることで自分でも対応できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内は状態に合わせて怪我や転倒を防止する工夫をしている。ベッドの高さやイスの高さなど安全に立位できる高さに設置し転倒防止に努める。プライバシーに配慮しながら、夜間はセンサーを設置し介護職員の目が届くよう工夫している。		

2023年度

事業所名 グループホームちいさな手鎌倉の杜

作成日： 2024 年 2月 15日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	緊急時の対応や応急処置について、職員全員が理解し、慌てず行動できるようになる	外部の機関を利用し知識と技術を学ぶ機会を設け、内部に周知できるよう努める	消防署の普通救命講習を受講する	6ヶ月
2	2	近年感染症の流行で、入居者様が屋外に出る機会が作れず、社会との繋がりを感ずることが少なくなってきた	積極的に野外に出て地域交流を増やすことで、入居者様の住みやすい環境づくりを行う	地域のお祭りの参加、防災訓練の参加、地域包括支援センターの取り組みに参加	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月